



まずは、題材のねらいと評価規準を設定しましょう

ねらい・音やフレーズのつなげ方の特徴について、それらを生み出すよさや面白さなどに気付くとともに、思いや意図に合った表現をするために必要な、音楽の仕組みを用いて音楽をつくる技能を身に付ける。

(知識及び技能)

- 日本の音階や旋律、呼びかけとこたえなどを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや、音階による旋律の雰囲気の違いを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、どのようにまとまりを意識した音楽をつくるかについて思いや意図をもつ。

(思考力、判断力、表現力等)

- 音階を基にして音楽をつくることに興味をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に学習活動に取り組み、日本の音楽に親しむ。

(学びに向かう力、人間性等)

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 音やフレーズのつなげ方の特徴について、それらを生み出すよさや面白さなどと関わらせて気付いている。(知識) 思いや意図に合った表現をするために必要な、音楽の仕組みを用いて音楽をつくる技能を身に付けている。(技能) 	<ul style="list-style-type: none"> 日本の音階や旋律、呼びかけとこたえを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや、音階による旋律の雰囲気の違いを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、どのようにまとまりを意識した音楽をつくるかについて思いや意図をもっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 音階を基にして音楽をつくることに興味をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に音楽づくりの学習活動に取り組もうとしている。

つぎに、ゴールを見据えて題材を構想しましょう

題材の指導と評価の計画

(●…指導に生かす評価 ○…記録に残す評価)

時間	主な学習活動など	知	思	態
1	「沖永良部の子もり歌」を歌い、これまでに学習した「さくらさくら」と「ソーラン節」との雰囲気の違いを感じ取りながら、日本の三つの音階に親しむ。 ・「さくらさくら」都節音階(ミファラシドミ) ・「ソーラン節」民謡音階(ミソラシレミ) ・「沖永良部の子もり歌」沖縄音階(ドミファソシド)		●	●
2	グループで好きな音階と音楽で表したいテーマを決め、各自で2小節の旋律をつくり、互いの思いや意図を伝え合う。		○	●
3	各自がつくった2小節の旋律を表したいテーマに合うようにつなぎ、終わり方を工夫して仕上げる。できあがった旋律を全体で聴く。	○		○

題材の見通し

本題材では、日本の音楽の音階である都節音階、民謡音階、沖縄音階を基にした音楽づくりをします。音階を使った曲を歌ったり聴き比べたりする活動を通して、音階による旋律の雰囲気の違いに着目させ、音楽づくりの活動の充実を図るようにします。友達とつくりたいテーマを決めて協働することで、思いや意図を明確にし、旋律をつくる技能を身に付けるだけではなく、活動を楽しみながら日本の音楽の旋律がもつよさや美しさを味わうことができると考えます。



ICTの活用

三つの音階の特徴を聴き比べられるようにタブレットに音源を配信します。鍵盤ハーモニカや木琴を使って旋律を自由につくったあと、お気に入りの旋律をクロムミュージックラボ内のソングメーカーに入力し、記録に残します。旋律の動きが可視化され、何度も作り直せるので、視覚と聴覚で確かめながら、テーマに合う旋律になるように試行錯誤を重ねることができます。共有の提出箱に保存された友達の旋律を聴き合うことで、音楽づくりの表現の幅が広がると考えます。

本時のねらい 選んだ音階の雰囲気を感じ取りながら、つなぎ方、終わり方を工夫して、表したいテーマに合う旋律を友達とつくり出すことができる。

この時間は、前時に各自がつくった2小節の旋律を、グループの3人でつないで8小節の旋律にします。最後の2小節は、グループで木琴を使って考えます。できあがった旋律はソングメーカーに入力して音を確認し、表したいテーマに合うように確かめながら何度も練り上げていきます。

学 習 活 動

1 めあてと学習内容を確認する。

音階を意識して、つくった旋律を友達とつなげよう。

- 音楽づくりのポイント（音階の意識、呼びかけとこたえ、音やフレーズのつなぎ方、盛り上げ方等）と、グループで目指すテーマを確認する。

2 テーマに合う音楽になるように旋律をつなげる。

- 各自の旋律をつないで、6小節の旋律をつくる。
- つなぐ順番を入れ替えたり、音を変えたりして、テーマに合う音楽を目指す。

3 最後の部分を新たに新しく仕上げる。

- 最後の2小節の旋律をつかって、6小節とつなぎ、終わる感じになるように完成させる。

4 できあがった旋律を聴き合う。

- 大型画面に提示された旋律を見ながら、音楽づくりのポイントで工夫している点に着目して聴く。

5 本時の学習を振り返る。



児童の振り返り

自分がつくった旋律をグループでつなげて、音楽をつくり出すことができました。沖縄の音階らしさが出るようにとりの音に進むようにしました。最後の旋律は、どのように終わるとテーマに合うか木琴で音を試して、タブレットで旋律の動きを確認しました。音が上がるようにつなぐと、盛り上がる音楽になりました。ほかの音階でも音楽づくりをしてみたいです。



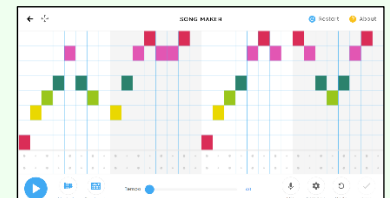
本時の見どころはココ！

- 前時に保存した各自の旋律を表示して3人でつなぎます。タブレットを並び替えて生まれる新たな旋律の動きを見て、テーマに合う音楽になるか音を聴いて確かめます。これまで学んできた旋律の動きによる音楽の特徴を考えながら、テーマに合う音楽を目指していくことができます。



音が上がるようにつくった二人の旋律をつなげてみたら、「沖縄のはなやかな感じ」にできるかな。

- 最後の7、8小節目の旋律は、グループで卓上木琴を使って終わる感じになるようにつくり出します。できた旋律をソングメーカーに入力し、音を聴きながら全体の旋律の動きを確認します。
- 完成した8小節の旋律がテーマに合っているか話し合い、改善が必要な場合は、旋律の動きを変えて修正します。
- できあがった旋律を保存して、共有の提出箱に保存し、全員で聴き合う活動につなげます。



はなやかな感じにするため、最後は音が高くなって終わるように、グループのみなど考えたよ。



作品はこちら

活用した機能：Google社提供 Web アプリ集「Chrome Music Lab」内「SONG MAKER」
(<https://musiclab.chromeexperiments.com/>)

最後に、題材を振り返り、児童にどんな力が身に付いたか確認しましょう



第1時における三つの音階の音楽を聴いたり歌ったりする学習が、音階の雰囲気を生かした旋律づくりにつながりました。タブレットを用いることで、鍵盤ハーモニカや木琴を使ってつくった旋律を保存することが可能になりました。旋律が可視化されるので、音楽の仕組みを意識しながら音楽づくりを行うことができました。音楽をつくる楽しさを友達と実感しながら、日本の音階がもつよさや美しさを味わうことができたと思います。